

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2023年度
授業科目名	病理学総論			担当教員	石井 映幸	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年後期	
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（医師）：29年	

授業概要

正常な人間の構造と機能を理解した上で、病気の原因・発生機序・病態について学ぶ。総論として、細胞・組織の障害と修復循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍ならびに器官系統別の疾患を各論として学習する。

到達目標

1. 病気の原因・発生機序・病態について説明することができる。
2. 症候論から見た病態を説明することができる。

回数	単元	内容
1	病理学とは	病気の成り立ち
2	循環障害	体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環
3	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血
4	循環障害	チアノーゼ、ショックの分類、DIC
5	炎症	炎症の徴候、発症機序
6	炎症	アレルギーの分類
7	免疫疾患	免疫システムについて
8	免疫疾患	膠原病について
9	代謝異常	脂質異常症、肥満
10	代謝異常	糖代謝異常、動脈硬化症、痛風
11	変性・壊死	萎縮・老化
12	先天異常	先天異常と遺伝子異常
13	先天異常	胎児異常、遺伝子異常、染色体異常
14	腫瘍	腫瘍の発生
15	腫瘍	良性和悪性、ステージ分類

評価	客観テストによる評価 100%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）
参考図書など	疾病のなりたち（医学書院）

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2023年度
授業科目名	基礎看護学概論			担当教員	秋田真理子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1 年 前期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（看護師）：16年	
授業概要						
看護とは何かを学ぶことを目的とし、看護を構成する主要概念である「人間」「健康」「看護」の定義を理解する。特に「人間」の概念を理解するために、『成長・発達する人間』『生活統合体』『環境と共存する』視点を導入とする。「健康」の概念では、『病気を抱えていても健康』という統合モデルを通して、新たな「健康の概念」を学修する。 看護は、看護者自身が対象へ働きかける倫理的な行為であり、この働きかける態度として「ケア」を超えた「ケアリング」という概念を学び、看護における倫理の概必要性を学修する。						
到達目標						
1. 看護の概念を表現することができる。 2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・spiritualな側面を持つ統合体として表現することができる。 3. 「ケア」「ケアリング」の概念を通して看護の目的・役割を説明することができる。 4. 看護実践における倫理と価値、倫理的ジレンマを説明することができる。						
回数	単元			授業内容		
1	看護の歴史―職業としての看護			ナイチンゲールの看護の業績		
2	看護の対象である人間理解 その1			①成長発達する人間：人間とは何か一生の営み一生きている、たくましく、良く生きていく ②発達課題とライフスタイル―成長発達の概念 ③基本的欲求―ヘンダーソン、マズロー		
3	看護の対象である人間理解 その2			①生活統合体 身体的・精神的・社会的・spiritualな側面を持つ統合体		
4	発達課題からみる「対」の概念			発達課題からみる「対」の概念		
5	看護の対象である人間理解 その3			①環境と共存する ②ストレス コーピング行動 ③内部環境としてのホメオスタシス、外部環境		
6	健康の概念 その1			①健康の定義 ②病気、ウェルネス、安寧の定義 ③WHOの定義 ④ナイチンゲールの定義 ヘンダーソンの定義		
7	健康の概念 その2			①病気を抱えていても健康 ②病気という観点からみる健康の概念 ③安定性 実現性としての健康 ④健康と病気のモデル 健康と病気の統合		
8	看護の概念 その1			①看護とは何か ②ケアとは何か ケアの本質		
9	看護の概念 その2			①ケアリングとは何か ②ケアとケアリングの関係		
10	看護の概念 その3			①看護の構造 ②看護の定義と特性		
11	看護の概念 その4			①専門職団体の定義―JNA ANA ICNの定義― ②尊厳を守る看護		
12	看護の概念 その5			①力 知識 意思 ―ヘンダーソン ②「皮膚の内側へ入るとは？」		
13	看護の概念 その6			①看護理論家が提唱する看護「ナイチンゲール」「ヘンダーソン」		
14	看護における倫理 その1			①倫理 価値 ②道徳 規範		
15	看護における倫理 その2			①倫理的判断 ②倫理的判断と倫理的ジレンマ		
評価		客観テスト による評価 60%、レポートによる評価 20%、演習による評価 20 %				
教科書		ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 看護学概論（メディカ出版） フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き―本当の看護とそうでない看護（日本看護協会出版会）、看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 【第3版】よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）				
参考図書など						

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2023年度
授業科目名	精神看護学概論		担当教員	六反邦裕	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）31年	

授業概要

本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。

到達目標

- 1 心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。
- 2 心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。
- 2 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
- 3 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。
- 4 精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。

回数	単元	内容
1	精神看護とは	精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何かということについて現在の自身の考えを表現する。
2	脳と心	心（精神）とは何か。精神と脳の関係について学ぶ
3	心の健康とは①	健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要かを学ぶ
4	心の健康とは②	心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健について学ぶ
5	心の構造	心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス
6	精神医療の歴史①	精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史について学ぶ
7	精神医療の歴史②	日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、どのような過程で制度が変化していったのかを学ぶ
8	精神保健福祉法①	精神医療を取り巻く法律について学ぶ。精神保健福祉法の目的について学ぶ
9	精神保健福祉法②	入院形態、行動制限について学ぶ
10	精神保健福祉法③	患者の人権を守るための仕組みについて学ぶ
11	精神症状① 思考の障害	思考の障害について学ぶ
12	精神症状② 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害	感情の障害、知覚の障害、意欲の障害について学ぶ
13	精神症状③ 意識の障害、記憶の障害、知能の障害	意識の障害、記憶の障害、知能の障害について学ぶ
14	精神看護を行う上で必要なもの①	精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）①
15	精神看護を行う上で必要なもの②	精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）②

評価	客観テストによる評価100%
教科書	【第6版】 系統看護学講座 専門分野2-〔22〕 精神看護学 1 精神看護の基礎（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2023年度
授業科目名	成人看護学概論		担当教員	紺谷 日登美(1～15)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）9年 看護教員：11年	

授業概要

生涯発達という観点から成人期にある人々の特徴についてライフサイクルの視点から対象を深く広く理解すると共に、成人期に特有な健康問題及び各健康レベルに応じた成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、多様な看護観について学修する。成人期は人生の中で多様性、複雑性に富んだ社会生活を営んでいる。その成人期にある対象を看護するには、対象理解や社会の変化に対応した能力が求められる。そこで本時では、生涯発達という観点とライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題について学習する。その上で成人期の生活と健康について環境や生活スタイル、現代社会における健康問題や政策など様々な方向から動向を探り、対象の状態に応じた看護アプローチ、倫理的判断についても学修する。

到達目標

1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその定義・発達課題について説明することができる。
2. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴について説明することができる。
3. 現代社会における保健の動向と成人期の特徴的な健康問題を知り、対象の生活と健康を関連付け説明することができる。
4. 成人期にある対象の看護に有用な理論の理解と応用について説明できる。

回数	単元	内容
1	成人期の理解	1. 生涯発達とは 2. ライフサイクルからみる成人期の特徴と生活
2	成人各期の理解	1. 各期の身体的・心理的・社会的特徴
3	成人各期の発達課題と危機状況	1. 各期の発達課題の特徴 2. 発達危機と状況危機
4		
5	成人と家族	1. 家族とは 2. 家族の役割と機能
6	成人の生活と疾病構造を探索 - 1	成人の生活と健康問題の関係と解決策：PBLにてグループワーク
7		プレゼンテーション
8	疾病構造を探索 - 2	1. 成人の生活と疾病構造 2. 成人期に特徴的な健康問題 3. 生活習慣と疾病 4. ストレスと健康問題 5. 職業疾患
9		
10	健康を守り育むシステム	1. 保健・医療・福祉システムの概要 2. ヘルスプロモーション 3. 地域の特徴と健康維持増進活動 4. 健康レベルに応じた看護
11		
12	倫理的判断と意思決定支援	1. 意思決定支援と看護師の役割
13	成人看護のアプローチの基本	1. 健康生活を促すための看護技術
14	成人看護に有用な中範囲理論とその活用	1. 主な理論 (1) 保健行動的理論（健康信念モデル、行動変容ステージモデル、病みの軌跡、セルフケア理論） (2) 生理学的中範囲理論（ニード論） (3) 情動的中範囲理論（ストレス・コーピング理論、死の受容過程理論、危機理論） (4) 社会的中範囲理論（役割理論、カルガリー家族看護モデル） (5) その他（症状マネジメントモデル、エリクソン発達論）
15	成人看護学概論まとめ	授業での重要ポイントを振り返り、学習内容の理解度を確認する

評価	客観テストによる評価 80%、課題・プレゼンテーション、授業参加状況 20%
教科書	系統看護学講座専門分野 成人看護学総論 【第15版】医学書院 看護のための人間発達学 【第5版】医学書院 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント 【改定第3版】南江堂 看護学テキスト NiCE 看護理論 【改定第3版】南江堂 公衆衛生がみえる 2021 - 2022 メデックメディア
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	基礎看護方法論Ⅷ			担当教員	高橋 綾子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務(看護師)：20年	
授業概要						
健康障害のある対象の治療方針が決定され、安心して安全・安楽に診療を受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の重要な役割である。薬物療法において、解剖生理学、薬理学、看護物理学の知識をもとに、安全・安楽な科学的根拠のある援助方法と与薬後の観察の視点を学ぶ。注射における身体的侵襲による対象の苦痛に配慮できる態度を学び、正確で安全な与薬技術を修得する。						
到達目標						
1. 与薬の意義・目的を説明することができる。 2. 与薬の経路と体内動態を説明することができる。 3. 各与薬法の目的・方法・留意点を説明することができる。 4. 与薬における看護師の役割を説明することができる。 5. 輸血療法の目的、方法、留意点を説明することができる。 6. 与薬の援助を受ける対象への配慮する必要性を説明することができる。 7. 誤薬防止の確認方法を実践することができる。						
回数	単元			内容		
1	与薬に関する基礎知識			1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法を受ける患者への技術 3) 薬物療法における看護師の役割 4) 薬の取り扱い		
2	ADME 各与薬法の技術①			1) 吸収から排泄までのメカニズム 2) 口腔内与薬（経口薬・舌下薬）（初回通過効果）の技術 3) 皮膚用製剤（塗布・貼付）の技術 4) 点眼、点鼻、点耳、吸入法		
3	各与薬法の技術の実際			【演習】 経口与薬法、皮膚用製剤の塗布・貼付の技術の実際（模擬患者への実践）		
4	各与薬法の技術②			【演習】 1) 直腸内与薬の技術 解剖・生理、基本的方法 2) モデル人形を用いて直腸内与薬の実践		
5	各与薬法の技術③ 注射法の基礎知識			1) 注射法の理解 2) 注射法を受ける患者への技術 3) 注射法における看護師の役割		
6	各与薬法の技術③ 注射法の基礎知識			1) 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射の基本的技術 必要な器具の取り扱い、共通する実施方法、注射による合併症		
7	注射法の技術の実際①			【演習】 皮下注射の技術の実際 1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引		
8	皮下注射			2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する。		
9	注射法の技術の実際②			【演習】 筋肉内注射の技術の実際 1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、バイアル、薬液の溶解、吸引		
10	筋肉内注射			2) モデル人形・模擬患者に基本的な注射方法を実践する。		
11	輸血の基礎知識			1) 輸血の種類、保存期間、保存方法 2) 考査試験		
12	各与薬法の技術④ 注射法の基礎知識			1) 静脈内注射の技術 2) 点滴法 3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの特徴・適用を知る。		
13	注射法の技術の実際③			【演習】 静脈内注射の技術の実際 1) 注射器（シリンジ）、注射針の取り扱い、アンプルカット、薬液の吸引		
14	静脈内注射			2) モデル人形を用いて基本的な注射方法（注射部位、角度、注入）を実践する。		
15	注射法の技術の実際④ 静脈内点滴注射の調整技術			【演習】 1) 手動での輸液滴下調整法の実施。 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプでの滴下調整法の機械操作の実施。		
評価		客観テスト70%、レポート提出30%				
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 看護が見えるVol①② 基礎看護技術（MEDIC MEDIA）				
参考図書など		適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	基礎看護学方法論Ⅱ			担当教員	監物 直子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 前期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務(看護師)9年	
授業概要						
臨床判断能力は、看護師の能力のひとつである。対象の状況における変化を認識できる能力であり、その場で気づき、解釈し、実践、評価する一連の過程である。臨床判断能力が必要とされる「気づき」は、今までの経験や既習学習に基づくものである。看護師が臨床で「気づき」「解釈」を通して、実践につなげていく臨床判断モデルに沿って思考過程を学ぶ。実習での体験を通して、「気づき」「解釈」「反応」「省察」の経験したことを用い、リフレクションを通して、臨床判断モデルに沿って思考過程を実践する。臨床判断を行うための基礎的能力を身につける。						
到達目標						
1. 臨床判断を説明することができる。 2. リフレクションを説明することができる。 3. 既習の知識を統合し、臨床場面の変化に気づき、その意味や現象を解釈することができる。 4. リフレクションやグループワークを通して、自身の行動を振り返ることができる。						
回数	単元		内容			
1	臨床判断とは		1) 臨床判断の定義 2) 臨床判断モデル			
2	気づくラウンド①		1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」「食事」「清潔」を支援するための情報に“気づく” ケース1：排泄の援助場面			
3	気づくラウンド②		1) 臨床判断「気づく」トレーニング 日常生活行動「排泄」「食事」「清潔」を支援するための情報に“気づく” ケース2：清潔の援助場面			
4	リフレクションとは		1) リフレクションとは 2) 行為についてのリフレクションと行為のなかのリフレクション 3) リフレクションに必要なスキル 4) リフレクティブサイクル			
5	リフレクションの実際		1) 基礎看護学実習Ⅲの経験をリフレクションする (1) リフレクティブサイクルを活用して			
6	リフレクションの実際		1) 基礎看護学実習Ⅲの経験をリフレクションする (1) リフレクティブサイクルを活用して			
7	リフレクションの実際		1) 基礎看護学実習Ⅲの経験をリフレクションする (1) グループ発表 学びの共有			
8	フィードバック (45分)		1) リフレクションを促進するフィードバック 2) リフレクション学習におけるフィードバックのスキル			
評価		客観テストによる評価100%				
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学実習②（医学書院）				
参考図書など		適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ			担当教員	川北 千鶴	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		有、病院・訪問看護勤務(看護師)：20年		
授業概要						
在宅看護の特徴として、疾患中心とした問題解決ではなく対象の生き方や望みを把握し、生活を重視した目標達成志向での看護過程であることを学修する。また、療養者、家族の思いや生きがい、大切にしたいことを中心に家族の介護力、家族の心身の健康状態、生活環境、経済状況と社会資源の活用状況におけるアセスメントをすることによって全体像を捉え、対象の生活への影響、今後の予測について学修する。						
到達目標						
1. 在宅看護過程では、医療と生活の側面を目的としていることを説明することができる。 2. 事例を通し、対象の疾患と制度・社会資源を説明することができる。 3. 在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる。 4. 国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルの活用とその必要性について説明できる。 5. 在宅看護のアセスメントの視点を説明することができる。 6. 対象の強みを活かし、生活を維持できる計画立案の必要性を説明することができる。 7. ケアの継続性の視点から評価・修正の必要性を説明することができる。						
	単元		内容			
1	第1章 在宅看護過程の展開		在宅看護の展開方法①在宅看護の特徴②情報収集とアセスメント 目標の設定・計画④実施と評価			
2	第2章 在宅看護の事例展開(1)		療養者に対する在宅看護の事例展開①疾患理解②事例紹介③情報の整理			
3	第3章 在宅看護の事例展開(2)		国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルを用いて対象の強みを考える			
4	第4章 在宅看護の事例展開(3)		事例展開 アセスメント(身体的側面)(精神的側面) ICF疾患関連図			
5	第5章 在宅看護の事例展開(4)		事例展開 アセスメント(環境・生活の側面)(家族・介護状況の側面) 制度、社会資源の理解（エコマップの作成）			
6	第6章 在宅看護の事例展開(5)		事例展開 援助計画の立案			
7	第7章 在宅看護の事例展開(6)		事例展開 援助計画の実施			
8	第8章 在宅看護の事例展開(7) まとめ		事例展開 目標の評価 まとめ「到達目標」達成状況の確認			
評価		客観テストによる評価50% 提出物50%				
教科書		系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践（医学書院） リハビリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術（医学書院）				
参考図書など		適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2023年度
授業科目名	小児看護学概論		担当教員	村上 ヒトミ (1、13～15) 石井 淳子 (2～12)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		村上 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 石井 実務経験：有・病院勤務（看護師）17年	

授業概要

子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の特徴と理念について学修する。子どもの成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の形態的、生理的、知的、情緒的特徴等について学修し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学修する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学修する。

到達目標

1. 小児看護の歴史から、現代における子どもを看護する上で必要な理念と看護者の姿勢について表現することができる。
2. 小児看護の目標、対象、特徴について説明することができる。
3. 小児看護を理解するために必要となる家族倫理および家族支援の必要性について表現することができる。
4. 子どもの成長・発達の原理・原則と成長過程について説明することができる。
5. 各期の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から具体的に述べるすることができる。
6. 子どもにとって必要な栄養について説明することができる。
7. 子どもや家族への適切な支援について表現することができる。

回数	単元	内容
1	第1章 小児看護の特徴と理念	①小児看護の目指すところ ②小児看護の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤小児看護の課題
2	第2章 子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価
3	第3章 新生児	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護
4	第3章 乳児（1）	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
5	第3章 乳児（2）	
6	第4章 幼児（1）	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
7	第4章 幼児（2）	
8	第4章 幼児（3）	
9	第4章 学童（1）	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護
10	第4章 学童（2）	
11	第5章 思春期・青年期（1）	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③知的・情緒（心理）的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護
12	第5章 思春期・青年期（2）	
13	第6章 家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント
14	第7章 子どもと家族を取り巻く社会（1）	①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥食育 ⑦特別支援教育 ⑧臓器移植
15	第7章 子どもと家族を取り巻く社会（2）	

評価	客観テストによる評価80%、課題レポート20%の総合評価とする
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ看護学[2]小児臨床看護各論（医学書院） 看護実践のための人間発達学（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ			担当教員	水原 幸子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（助産師）：18年		
授業概要						
母性看護学概論、母性看護学方法論の学習を基盤とし、事例を用いて産褥期・新生児期の看護過程を展開する。母性看護の対象は周産期にある女性と新生児および家族である。分娩は女性のライフサイクルにおいて大きなライフイベントであり、出産により本人のみならず家族の役割も大きく変化する。看護過程の展開によりウェルネス志向の必要性および看護実践に必要な基礎的知識、態度、技術について学修するとともに女性とその家族の一生の健康を維持、増進するための継続看護における看護の役割を理解する。						
到達目標						
1) 母性看護におけるウェルネス志向を踏まえヘルスプロモーションについて説明することができる。 2) 褥婦・新生児の紙上事例で一連の看護過程を展開することができる。 3) 褥婦・新生児・その家族を含めた支援の必要性を理解し支援方法を考察することが出来る 4) 対象褥婦の発達段階・発達課題をとらえ母親役割獲得過程に必要な支援を考察することができる 5) 母性におけるセルフケアの必要性を理解し、産褥期の継続看護を説明できる。						
回数	単元		内容			
1	看護過程の展開（1）		（講義）母性看護における看護過程 （演習）情報の分類			
2	看護過程の展開（2）		（講義）アセスメントの視点 （演習）アセスメント			
3	看護過程の展開（3）		（講義）看護診断リスト （演習）看護診断			
4	看護過程の展開（4）		（講義）ウェルネス志向 （演習）目標設定			
5	看護過程の展開（5）		（演習）計画立案			
6	看護過程の展開（6）		（演習）具体策の実施			
7	看護過程の展開（7）		（講義）記録について （演習）記録の実際			
8	看護過程の展開（8） （45分）		継続看護の必要性（対象に必要な支援について考える）			
評価		レポート・客観テストによる評価合わせて100%				
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 （医学書院） 看護診断ハンドブック				
参考図書など		適宜紹介				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	放射線医学			担当教員	星川 嘉一	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 前期	
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（医師）：34年	
授業概要						
放射線医学は画像診断学、IVR、核医学及び放射線治療学から成り立っている。画像診断学には、単純X線撮影、種々の造影X線検査、超音波検査、CT、MRI、血管造影が含まれる。これらの画像診断法の基本的な原理や適応疾患などについて教授する。IVRの基本手技や適応疾患について解説し、核医学は原理および実際臨床を中心に講義する。放射線治療については原理臨床のみならず、対象疾患であるがんについても考える						
到達目標						
1. 放射線診断、放射線治療の意義を説明することができる。 2. 放射線の人体への作用機序を説明することができる。 3. 放射線の健康影響、リスクと被ばく線量との関係を説明することができる。 4. 放射線診断に伴う有害事象（造影剤の副作用等）を説明することができる。 5. 放射線診断に伴うリスクと看護について説明することができる。 6. 放射線治療に伴う有害事象（副作用）とその看護について説明することができる。 7. 医療者自身の被ばく防護方策を説明することができる。 8. 放射線被ばくに対する不安を受け止めたうえで、関係職種とともに適切に対応する必要性を述べることができる。						
回数	単元			内容		
1	放射線医学とは			1) 歴史 2) 放射線の性質 3) 放射線・放射能 4) 被ばく及び放射線防護		
2	放射線診断学			1) 基本的画像 2) 造影剤		
3				3) 画像診断の実際 CT、MRI、US		
4	血管造影			1) 血管造影（塞栓物質・TAE、PTCA、PTBD） 2) IVRの実際と看護		
5	核医学検査			1) 核医学 2) 撮影法 3) 注意点		
6	放射線治療			1) がんの基本 2) 放射線治療の原理 3) 対象疾患 4) 放射線治療の実際		
7						
8	放射線治療における看護の役割（45分）			5) 放射線治療における看護の役割と機能		
評価		客観テストによる評価100%				
教科書		系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院）				
参考図書など						

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ		担当教員	中島裕子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：20年	

授業概要					
高齢者における健康障害をとらえ、その人を全人的に理解し、具体的な援助を立案・実施・評価する。					

到達目標					
1. 高齢者における健康障害の内容や援助方法について論じることができる。 2. 老年症候群の症状ある高齢者の看護について論じることができる。 3. 肺疾患のある高齢者の看護について説明し、援助計画を立案・実施・評価することができる。 4. 授業や演習の重要なポイントを振り返り、知識や技術の習得状況を確認する。					

回数	単元	内容
1	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(1)	授業ガイダンス、症候のアセスメントと看護、老年症候群他
2	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(2)	身体疾患のある高齢者の看護(1)心不全、骨粗鬆症、骨折他
3	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(3)	身体疾患のある高齢者の看護(2)慢性閉塞性肺疾患、パーキンソン病他
4	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(4)	身体疾患のある高齢者の看護(3)インフルエンザ、誤嚥性肺炎他
5	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(5)	演習準備(健康障害がある高齢者の看護を考える)
6	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護(6)	[演習](健康障害がある高齢者の看護を実践する)
7		
8	老年看護学方法論Ⅱ まとめ(45分)	授業や演習の重要なポイントを振り返り、知識や技術の習得状況を確認する。

評価	客観テストによる評価80%、平常点20%（課題および授業参加状況）
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 根拠と事故防止から見た老年看護技術（医学書院）
参考図書など	写真でわかる高齢者ケアアドバンス（インターメディカ）

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ			担当教員	村上 ヒトミ（1～6、10、11、14、15） 石井 淳子（7～9、12、13）	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			村上 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 石井 実務経験：有・病院勤務（看護師）17年	
授業概要						
健康問題が子どもと家族に及びず影響について学修し、子どもの健やかな成長・発達を支援するために必要な看護について学修する。						
到達目標						
1. 小児の成長・発達と様々な健康レベルに応じた看護の特徴を説明することができる。 2. 健康障がいをもつ小児と家族への看護について説明することができる。						
回数	単元		内容			
1	第1章 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護(1)		①病気・障がい子どもと家族に与える影響 ②子どもの健康問題と看護			
2	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護(1)		①入院中の子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族の看護 ③在宅療養中の子どもと家族の看護 ④災害時の子どもと家族の看護			
3	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護(2)					
4	第3章 子どもにおける疾病経過と看護(1)		①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期の子どもと家族の看護			
5	第3章 子どもにおける疾病経過と看護(2)					
6	第3章 子どもにおける疾病経過と看護(3)					
7	第4章 子どものアセスメント(1)		①アセスメントに必要な技術 ②身体的アセスメント			
8	第4章 子どものアセスメント(2)					
9	第4章 子どものアセスメント(3)					
10	第5章 症状を示す子どもの看護(1)		①不機嫌 ②啼泣 ③痛み ④呼吸困難 ⑤チアノーゼ ⑥ショック ⑦意識障害 ⑧痙攣 ⑨発熱 ⑩嘔吐 ⑪下痢 ⑫便秘 ⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血 ⑰発疹 ⑱黄疸			
11	第5章 症状を示す子どもの看護(2)					
12	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護(2)		①検査・処置総論 ②薬物動態と薬用量の決定 ③与薬 ④輸液管理 ⑤抑制 ⑥検体採取 ⑦罨法 ⑧清潔 ⑨経管栄養 ⑩排泄 ⑪呼吸症状の緩和 ⑫救命処置			
13	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護(3)					
14	第7章 障がいのある子どもと家族の看護		①障がいのとらえ方 ②障がいのある子どもと家族の特徴 ③障がいのある子どもと家族への社会的支援			
15	第8章 子どもの虐待と看護		①子どもの虐待への対策と経緯 ②リスク要因と発生予防・早期発見 ③子どもの虐待に特徴的にみられる状況 ④求められるケア			
評価		客観テストによる評価100%				
教科書		系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論（医学書院） 看護実践のための人間発達学（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 第3版 （メヂカルフレンド社）				
参考図書など		適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ		担当教員	北川 悦子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験:有 病院勤務(助産師):3年 専門学校教員:34年	

授業概要

母性の周産期における変化はウェルネスである。正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を生理的变化を踏まえ学修する。妊婦・産婦に行われている看護内容を理解し、実習では妊婦・産婦に適切な対応ができるように学修する。正常な褥婦および新生児の観察、アセスメント、看護実践ができるような知識・技術・態度を学修する。

到達目標

- 1) 妊婦・産婦・褥婦・新生児の定義を説明することができる。
- 2) 妊娠の成立と胎児の発育をイメージしたうえで、生命の尊厳を考察することができる。
- 3) 妊娠に伴って起こる変化をふまえ、ロールプレイングすることができる。
- 4) グループで分娩各期の看護について説明することができる。
- 5) 産褥期の心身の変化をふまえ、観察することができる。
- 6) 新生児の生理的变化をふまえ、アセスメント内容を説明することができる。

回数	単元	内容
1	第1章 妊娠期における看護(1)	講義概要①妊娠の定義②妊娠の成立と胎児の発育③胎児付属物④胎児循環 教科書第3章
2	第1章 妊娠期における看護(2)	①妊娠期間の定義②妊娠に伴う母体の生理的变化 課題の説明 教科書第3章
3	第1章 妊娠期における看護(3)	①妊婦の心理②家族の心理③社会的サポート④妊婦の健康状態と胎児発育 ⑤妊婦健康診査 教科書第3章
4	第1章 妊娠期における看護(4)	妊娠各期(初期・中期・後期)の保健指導 ロールプレイングの準備 教科書第3章
5	第1章 妊娠期における看護(5)	妊娠各期(初期・中期・後期)の保健指導 ロールプレイング 教科書第3章
6	第2章 分娩期における看護(1)	①分娩の定義②分娩の3要素③胎児の産道通過機序 教科書第4章
7	第2章 分娩期における看護(2)	①分娩各期の看護②ビショッブスコア③恐怖・緊張・痛み症候群④母子相互作用 教科書第4章
8	第2章 分娩期における看護(3)	①事例から分娩各期の看護を考える 教科書第4章
9	第3章 産褥期における看護	①産褥期の生理的变化②退行性変化③進行性変化 教科書第6章
10	第3章 産褥期における看護	①褥婦の心理的变化②家族の心理的变化③社会的支援 教科書第6章
11	第3章 産褥期における看護	①子宮復古の援助②母乳促進の援助③褥婦の系統的観察④褥婦の健康と快適さを促す援助⑤育児技術への援助 教科書第6章
12	第1～3章 母性看護の技術	演習:レオポルド触診法 胎児回旋 子宮底の観察 妊婦体験 教科書第3、4、6章
13	第4章 新生児期における看護	①新生児の生理的变化②子宮外適応現象③生理的黄疸 教科書第5章
14	第4章 新生児期における看護	①出生直後のアセスメントと看護②黄疸の評価③生理的体重減少の評価 教科書第5章
15	第4章 新生児期における看護	①新生児の観察と報告②移行期から退院までの看護③新生児の医療事故と安全 教科書第5章

評価	客観テストによる評価90% レポート10%
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 (医学書院)
参考図書など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 (医学書院)

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ			担当教員	水原 幸子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			水原（有・病院勤務（助産師）18年）	
授業概要						
妊娠・分娩・産褥は正常な経過である。しかし、これらの時期は身体的・心理的・社会的にも大きな変化があり、役割も変化するため適応が必要とされる時期である。つまり正常な経過ながらその変化は大きく、そのため正常を逸脱し、異常に傾きやすく不安的な時期である。母性各期の異常を学習することで女性生殖器にかかわる疾患及び妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の異常な経過を理解し、各期の看護を学修する。また、母性看護に必要な知識・技術を習得することで看護実践へとつながるように学修する。						
到達目標						
1) セクシュアリティの観点から性を理解し、女性生殖器特有の疾患・看護を述べることができる。 2) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常な経過を説明することができる。 3) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過を理解することができる 4) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過から各期の看護を理解することが出来る。 5) 母性看護学で学習した知識を活用し、母性看護技術を安全に留意し実施することが出来る。 6) 母子のつながりを意識し、母児への看護の必要性を考えることができる。 7) 生命倫理について母児のつながりを意識しながら自己の考えを深めることができる。						
回数	単元			内容		
1	性・生殖機能障害のある患者の看護			①女性生殖器疾患患者の理解 ②女性生殖器疾患患者の看護の特徴		
2	外性器・内性器の手術を受ける患者の看護			①乳房切除術 ②子宮摘出術 ③術後合併症とその予防		
3	女性生殖器疾患を持つ人々やその家族への看護を考える			①リプロダクティブヘルス／ライツ、セクシュアリティの定義および概念 ②ボディイメージの変化に伴う心理過程と看護		
4	妊娠期の異常(1)			①妊娠の生理の理解 ②疾患の理解(1)（ハイリスク妊娠・妊娠期の感染症・妊娠疾患）		
5	妊娠期の異常(2)			①疾患の理解(2)（多胎妊娠・妊娠持続期間の異常・異所性妊娠） ②正常からの逸脱のある対象の看護 ④ハイリスク妊婦の看護（P.414～）		
6	妊娠期の異常(3)			①妊娠中に正常からの逸脱がある対象の看護 （肥満・過剰体重増加・妊娠高血圧症候群・切迫流・早産）		
7	分娩期の異常(1)			①分娩の生理の理解 ②疾患の理解(1)（分娩の3要素の異常・胎児機能不全）		
8	分娩期の異常(2)			①疾患の理解(2)（分娩時の損傷・分娩第4期の異常・分娩時異常出血） ②産科的処置と産科手術		
9	分娩期の異常(3)			①異常のある産婦の看護 ②分娩時異常出血のある産婦の看護		
10	産褥期の異常(1)			①産褥の生理の理解（促進因子、阻害因子） ②疾患の理解（子宮復古不全・産褥期の発熱・産褥血栓症・精神障害）		
11	産褥期の異常(2)			①異常のある褥婦の看護（感染症のある褥婦・乳房トラブル・育児の困難を抱える褥婦・児を亡くした褥婦・家族）		
12	新生児期の異常(1)			①新生児の異常と看護(1)（新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児） ②胎外生活適応の促進因子、阻害因子（生理的黄疸・生理的体重減少）		
13	新生児期の異常(2)			①新生児の異常と看護(2)（高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血） ②メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援		
14	演習：新生児における看護技術			①新生児の沐浴②身長③体重④頭囲・胸囲の計測④新生児バイタルサイン測定		
15				⑤だっこ ⑥おむつ交換⑦その他		
評価		客観テストによる評価80% 課題レポート20%				
教科書		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔9〕	女性生殖器	（医学書院）
		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	母性看護学〔2〕	母性看護学各論	（医学書院）
		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	母性看護学〔1〕	母性看護学概論	（医学書院）
参考図書など		適宜紹介				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2024年度
授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ			担当教員	片平 真悟	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年前期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			実務経験：有、病院勤務（看護師：30年）	
授業概要						
精神医学および精神保健福祉に関する法的側面について理解し、精神障がいをもつ患者の看護実践に必要な知識を学習する。 精神症状、精神科における検査法と治療法、各種精神障がい、精神保健福祉法について理解する。						
到達目標						
1. 主要な精神障害とその治療を説明することができる。 2. 精神看護の方法論を説明することができる。						
回数	単元		内容			
1	精神科で出会う人々		1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像 3) 精神障害の診断と分類			
2	精神疾患の理解①		統合失調症			
3	精神疾患の理解②		気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕			
4	精神疾患の理解③		神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害			
5	精神疾患の理解④		生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			
6	精神疾患の理解⑤		パーソナリティ障害			
7	精神疾患の理解⑥		器質性精神障害〔神経認知障害群〕			
8	精神疾患の理解⑦		精神作用物質使用による精神および行動の障害			
9	精神疾患の理解⑧		神経発達障害群 てんかん			
10	精神疾患の理解⑨		心身症 秩序破壊的・衝動制御・素行障害			
11	精神科での治療①		薬物療法 電気ショック療法			
12	精神科での治療②		薬物療法 電気ショック療法			
13	精神科での治療③		精神療法 個人療法			
14	精神科での治療③		精神療法 集団精神療法 家族療法			
15	精神科での治療④		環境療法・社会療法 作業療法（OT） 精神科リハビリテーション			
評価		客観テストによる評価 100%				
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② （医学書院）				
参考図書など						

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	総合看護技術		担当教員	板橋由加里（1～15）、小泉由香里（3～15）	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	3年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		板橋（有 病院勤務（看護師）22年） 小泉（有 病院勤務（看護師）9年）	

授業概要

看護基礎教育では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、臨地実習で看護実践できる基礎的能力を身につける必要がある。本科目では、臨床現場を想定した多重課題を学内で演習することにより、解決するための創造的思考力、優先順位の判断力や時間管理、連絡・相談・報告の重要性について学ぶ。また、看護実践能力を高めること、入院患者の安全・安楽な療養環境の保持を理解すべく医療安全について学ぶ。さらに、この学習を通して、専門職としての責任感・倫理観の向上及び看護実践能力における自己の課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。

到達目標

- 看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。
- 複数事例の健康上の問題を査定し、問題解決のための看護計画が立案できる。
- 健康レベルの異なる看護計画を立案することで、専門基礎・専門知識による援助行動に結びつくアセスメントを即時に行うことができる。
- 複数事例の多重課題に対する援助の優先順位を判断し、それぞれのニーズに応じた個別性・優先度を考慮した看護の提供について考え、実施及び評価ができる。
- 優先順位の根拠が説明でき、同意を得て援助を行う必要性がわかる。
- 複数事例の援助におけるリスク管理について考慮できる。
- グループ活動を通して看護者としてのリーダーシップ、メンバーシップの役割が理解できる。
- 客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination:OSCE）への取り組みを通して、専門性のある看護職者としての今後の課題を明確にできる。
- 上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。

回数	単元	内容
1	看護ケアのマネジメント	看護者として必要な倫理 看護チームと看護活動 医療安全対策 看護記録とは
2	看護ケアのマネジメント 医療事故対策	医療事故・インシデントレポートの分析と活用、事故事例の分析と対策の検討 事故事例のKYT訓練、緊急度と優先度：演習
3	看護ケアのマネジメント 看護業務の実践	授業計画のガイダンス 複数事例提示、複数事例のアセスメントの視点①
4	看護ケアのマネジメント 日常業務のマネジメント	複数事例のアセスメントの視点②
5	看護ケアのマネジメント 日常業務のマネジメント	グループ発表：複数事例の看護計画
6	看護ケアのマネジメント 日常業務のマネジメント	グループ発表：複数事例患者の優先順位の判断について
7	看護ケアのマネジメント 優先順位の決定と多重課題への対応	多重課題の提示
8	看護ケアのマネジメント 優先順位の決定と多重課題への対応	多重課題の提示 行動予定の計画立案
9	複数事例の多重課題演習①②	複数事例患者の看護実践 ロールプレイングのシナリオ作成及びグループ演習
10		
11	複数事例の多重課題演習（OSCE）	複数事例患者の看護実践（多床室での設定） 演習：ロールプレイング 1) 時間管理の徹底 2) 援助行動の優先順位を判断する 3) 応援要請の方法を習得する 4) 看護者としての倫理的行動 5) チームにおける看護実践 6) 記録（実践と評価）、実習記録をイメージする 7) 自己の課題に気づき、対策法を思考 8) 学生による講評から、よりよい実践方法を討議する
12		
13		
14		
15	OSCEのフィードバック	OSCEのフィードバック 1) 演習を通して、看護実践能力における自己の課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを考察する。グループ発表

評価	客観テストによる評価 50%、提出物30%、技術試験（OSCE）20%
教科書	系統看護学講座 別巻 統合分野〔2〕看護倫理 【第2版】 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 【第4版】 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 【第10版】 医学書院 ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 【改定第3版】 南江堂 看護のための人間発達学 【第5版】 医学書院 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント【第5版】 学研メディカル 看護診断ハンドブック 【第11版】 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 【第2版】 照林社
参考図書など	適宜紹介する。

学校名	茅ヶ崎看護専門学校		学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	災害看護と国際協力			担当教員	今井家子(1～9)、齋藤麻子(10・11) 足立典子(12～15)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	3年 後期	
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数			今井(有、看護師：50年) 齋藤(有、看護師：11年) 足立(有、看護師：47年)	

授業概要

災害が人や社会に与える影響を知り、時間・活動の場・活動対象を組み合わせ、健康と生活を守るために必要な看護師の役割を学ぶ。講義やグループワークを通して災害発生時の病院の動きを学ぶ。また、災害急性期に必要な3Tsを演習を通して学ぶ。災害後の地域で生活する人々への看護師の役割を学ぶ。避難所運営シミュレーションを通して災害時要援助者を知り、要援助者が必要な看護職者の役割を考える。災害時に必要なこころのケアについて学ぶ。
世界で生じている状況を事例(新聞やテレビ)を通して理解し、看護について自分で考え、述べる機会を通して考えを深める。(自分で表現することを大切にしたい) また、日本人の文化・価値観と外国人の文化・価値観の類似・相違を理解し、異文化に伴う看護について学ぶ。

到達目標

1. 災害とは何か。災害が人に与える影響を説明することができる。
2. 災害時の病院を取り巻く連携部門の動きを知る。発災時の病院の対応をグループワークを通して学び、要点を説明することができる。
3. 災害急性期の3Tsを正しく実践することができる。
4. 災害時の避難所での看護職者の活動をしり、机上シミュレーションを通して要援助者への看護を説明することができる。
5. 災害時のこころのケアに対する看護職所の役割を説明することができる。
6. DVDを通しての学びから、看護師になるものとしての考えを述べることができる。
7. 対象の持つ文化的背景と熟慮した看護を考察することができる。
8. 変動する世界の健康・生活に関する課題を把握し、必要な看護(対策)を考察することができる。
9. 国際看護活動に必要な知識を類別した上で、その能力を習得するために日々自己研鑽できる姿勢をつちかう。

回数	単元	内容
1	災害医療の基礎知識	災害の定義、災害の種類と健康障害、災害サイクル、救急と災害の比較
2	災害サイクル超急性期～急性期の病院	災害時の医療連携、被災病院の対応、CSCATTT
3	災害サイクル超急性期～急性期の被災現場、救護所	急性期の医療、トリアージ、災害に特有の疾患と応急処置
4	災害サイクル急性期の3Ts	【演習】トリアージの実際
5	災害サイクル急性期の3Ts	【演習】トリートメント 包帯法、骨折時の固定
6	災害サイクル急性期の3Ts	【演習】トランスポート(担架搬送、毛布を使った搬送)
7	災害サイクル急性期～亜急性期・地域	避難所の看護
8	避難所運営	HUG(避難所運営ゲーム)
9	被災者の特性と看護	災害時要援助者、福祉避難所
10	災害時のこころのケア	被災者、援助者、被災者で援助者 へのこころのケア
11	DVD鑑賞	DVDの鑑賞から学んだ、看護師になるものとしての考え
12	国際救援	世界の災害 国際救援の基本的な考え方 国際救援のシステム JDRの活動
13	国際看護	国際看護の概念 看護・保健の立場から見た世界の現状 看護の視点から見た母子保健 感染症 高齢者
14	国際看護	医療に関連する歴史的経緯 プライマリーヘルスケア 持続可能な開発目標 国際看護活動の考え方と必要な能力
15	国際看護	国際看護活動の実際(ネパール) 日本在住の外国人への看護、世界の看護師不足

評価	災害看護(終講時レポート40%、筆記試験40% 演習・グループワークの参加態度20%) 国際看護(客観テストによる評価100%)
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学(医学書院)
参考図書など	

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2025年度
授業科目名	看護研究		担当教員	増田信代	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	3年 前期・後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）：16年	

授業概要

看護研究の基本を学び、看護における研究の意義、研究の種類、研究方法、研究に関する倫理的配慮などの必要な知識を学修する。さらに、研究計画書を作成し事例をまとめることで実践した看護を評価し、論文のまとめ方・発表の仕方を学修する。

到達目標

1. 看護研究の意義と概要、研究の進め方理解できる。
2. データベースを活用して文献検索ができる。
3. 人を対象にした研究倫理について述べるができる。
4. 量的研究・質的研究それぞれの概要と特徴を説明できる。
5. クリティークの意義を理解し、実践することができる。
6. 看護研究計画書の構成と作成方法を知り記載することができる。
7. 看護研究の方法を活用し、事例をまとめることができる。
8. 発表することができる。

回数	単元	内容
1	研究の意義	①研究の原点、②看護研究とは、③看護研究のプロセス
2	看護課題（テーマ）の選定	①看護研究のためのリサーチエスチョン、②看護研究としての意義あるリサーチエスチョンの立て方、③研究の概念枠組み
3	看護における文献検索	①文献検索の方法、②文献整理の方法
4	研究における倫理	①看護研究における倫理の重要性、②看護研究における倫理原則、④研究の対象者の権利、⑤研究計画書作成時・研究実施時・論文作成時の倫理的配慮、⑥研究公表時の研究者の責務の説明、⑦研究倫理に関わる基本的な考え方
5	量的研究の基礎	①データの種類と特徴、②記述統計と推測統計、
6	質的研究の基礎	①質的研究の種類と特徴、②質的研究の必要と、量的研究の違い、③主な質的研究の方法（面接法・観察法）、④インタビューガイド
7	論文クリティーク	①論文クリティークとは、②論文クリティークの方法
8	研究計画書の作成①	①研究計画書作成の目的、②研究計画書の構成、研究計画書の主要項目の要点③看護研究テーマの絞り込み
9	研究計画書の作成②	①研究計画書作成、②作成した計画書に対する意見交換
10	看護研究の実際	指導教員から指導を受ける
11	看護研究の実際	指導教員から指導を受ける
12	看護研究の実際	指導教員から指導を受ける
13	看護研究の実際	指導教員から指導を受ける
14	発表（プレゼンテーション）	①プレゼンテーションの意義、②発表の場、③プレゼンテーションの形式、④発表で使う日本語の形式、⑤発表時間、⑥発表者としての姿勢・態度
15	看護研究の実際	口頭発表

評価	客観テストによる評価、研究計画書、指導経過表、ケーススタディとしてまとめた論文による総合評価100%（ケーススタディの評価は評価表による）
教科書	系統看護学講座 看護研究（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する